

新自由主義に打ち勝つ

今日世界は、国際的にも国内的にも分裂拡大の様相を呈しています。どこも共通の社会規範が失われていっているのです。日本でもこの数十年の間に社会の靱帯であるさまざまな共同の基盤が損なわれてきました。家族、地域共同体、企業その他の社会団体などの衰退、変容です。これは世界共通の現象でそれをもたらした最大の要因は、国家の変容です。すなわちグローバリゼーションの時代における国際資本の覇権の下で、国民国家の主権が減縮されてきたことにあります。国民の運命が国民国家ではないその外部の強大な権能に振り回されるようになりました。

20世紀前半までは、福祉国家が資本主義の危機へ有効に対処してきていたのが、福祉国家自体が行き詰まり、代わって新自由主義の権力が登場しました。

新自由主義は、功利主義に由来するアングロサクソンの思想ですが、社会の全局面、生活、文化すべてを経済競争の下におき、経済効率にもとづいてものごとの価値を設定します。これによる激しい収奪は世界各所に格差社会を生み出しました。その魔の手は、生産機構にとどまらず、流通、情報はもとより、貴重な自然をも、例えば新植物の種などの貴重な品種を独占するなどして私物化し、目に見える現象としても都市空間などをも私有化するなど、公共的価値や公共そのものを収奪するに至っています。1%対99%という評語は、たちまちに世界に広まったようですが、新自由主義権力の反社会性を端的に表していると思われます。

ただグローバリゼーションそれ自体は、新しい未知のものを求めるという人間本性にもとづいて現代諸国民の知力がもたらしているもので、世界史の不可避の流れと思われます。グローバルな時代は、世界がすべて密接に関連し、自然環境から生活、文化に至る一切がもろに影響し合うという関係にあります。従来の国民国家の枠を越えた地球船時代の新しい倫理が必要になっています。

国際社会でも日本でも、時代の変化に伴って公共規準創造の努力はそれぞれなされてはきていました。いまこうした動向を大きなうねりとする機会と思い

ます。3年前の東日本大震災に際し、絆という言葉が広く交わされるようになりました。弱者との連帯は、人類の偉大な教師たちが説いてきた悠久の知恵です。2千数百年前に孔子は仁を、紀元の頃キリストは博愛を、同じ時期大乘仏教は慈悲と縁起を説きました。人間社会はこうした先哲の教えにずっと導かれてきました。人は利己的動物ではありますが、利他的でなければ生きられないことも皆知っています。こうした知恵を共有している日本や世界の良識の力が、新自由主義に敗北するはずはないと考えます。

それには共同体のよき伝統を継承しながら、偏狭なナショナリズムにはもとづかないこれからの開かれた共同存在のあり方を、それぞれの持ち場で創造し、世界に通用する共同性を拡大発展させていくことが必要となりましょう。皆様方の御健闘を祈念してやみません。

2014年1月21日

一般社団法人くらしのResearchセンター

賀詞交歓会会長挨拶